

こんにちは♪

日本共産党市議会議員



小野寺ゆきえです!



## 「抑止力」では説明できない危険な動き

最近、ますます戦争に近づいているように感じます。政府は「たくさんの武器を備えることで、相手に攻撃を思い留ませることになる」と、大軍拡計画に多くの予算を使っています。最新鋭の軍事研究を進める大学に多額に補助を出すことも決めました。まさに戦争の準備としか思えませんが、政府は「抑止力」だと説明しています。

一方で、自衛官が戦争で命を落とすことや、爆傷・銃創を負った場合の対処方の準備も進めています。海外で多くの自衛官が亡くなった場合の対応や、遺体を腐敗させないように搬送する方法、損傷の大きい遺体の修復方法などを、自衛隊が施せるようにするために葬儀協会の協力を得る協定も結びました。自衛隊病院のベッド数の拡充も進めています。自衛隊の施設を地下に埋め、攻撃を受けても

壊れないようにする準備も始まっています。これらの準備は、「抑止力」では説明が付きません。

命の危険が増す自衛官ですが、入隊時には危険を顧みずに任務にあたることを宣誓しなければなりません。だからこそ、自衛官の募集が年々減っているのは当然です。自衛隊幹部は「これだけの減少は軍事力に影響する」と述べているように、“人は減り任務は増える”状態です。

すると、信じられないことに高市政権は、国家公務員や地方公務員が予備自衛官として任務にあたることのできることを閣議決定し、法案も提出しました。“公務員版徴兵制”ではないでしょうか。

これを受け、地方自治体の労働組合『自治労連』は、「人員が削減され、公共を支える体制が脆弱になっている」「戦争の準備に力を注ぐのではなく、住民の命と暮らしを守るために、抜本的な人員体制の拡充こそ優先されるべき」と、法案に断固反対の立場を明確にしました。

国家公務員の労働組合は『私たちの主張』を発表し、「ふたたび戦争の奉仕者にならない」とのスローガンを掲げている国公労連として、その阻止に向けて組織の総力をあげてたたかう決意である」と述べました。しかし、自民、維新、中道などの賛成で可決してしまいました。

高市政権の「戦争する国づくり」を確実に止め、国民と自衛官の命を守り、平和を築くためには、憲法9条を守り生かすことが大きな力になります。このことが国民多数の意見になるように、頑張りたいと思います。